

館報



7 月号

No. 795

令和4年
(2022年)



※レッスン参加者の映り込み部分を画像処理しています

健康と笑顔届けたくて やまだ みゆき 山田 美由紀さん (小坂)

大手スポーツクラブのトレーナーとして18年勤め、現在は独立してパーソナルトレーナーとして多方面で活動している美由紀さん。ほぐしストレッチやヨガ、そしてパンチやキックの動きを取り入れてストレス発散を目的としたボクシングエクササイズを指導し、人気を集めているようです。

“運動が苦手な方にも楽しんでもらえるように”と「丁寧な指導を心がけ、これからもたくさんの方に健康と笑顔をお届けしたい」と語ってくれました。

(6月29日 レッスン会場のラーラ松本スタジオにて)

働姿

商工会青年部・農村青年会議 合同ごみ拾い

6月28日(火)、商工会青年部・農村青年会議による合同ごみ拾いが行われました。この活動は商工会青年部と若手農家の集まりである山形村農村青年会議が平成24年から共同ではじめ、一昨年の令和2年こそ新型コロナウイルス感染症拡大のため中止されましたが、継続して活動が続けられています。

今年の清掃範囲は記念碑から中大池信号、役場東と小坂交差点からグリーンロードまでの3ルートで3班に分かれて行い、6月では稀な30℃超えの炎天下、参加者は汗を滲ませながらゴミを拾っていました。

作業終了後、商工会青年部 両角浩一郎長、農村青年会議 青柳まどか会長の両代表から「暑い中みなさん頑張ってください。村をきれいにすることができたと思います」と、今年も開催できたことに安堵と充実を感じるコメントをいただきました。

同2団体では清掃活動以外にも村のイベントでブース設置や出店など協力して活動を行っています、同じ村で仕事を



する者同士の交流の場にもなっています。

参加者の活気はコロナ禍に負けない力強さを感じました。

建築職人の住宅デー

6月26日(日)、長野県建設労働組合連合会の『住宅デー』として村内の職人の皆さんが集まり、ボランティア活動が行われました。普段は役場などで対応ができない保育園の網戸の張替えや、役場庁舎の壁の修繕、ふれあいドームの引き戸の修理などを『プロの技』で行いました。



健康活動機つけ講座

6月26日(日)、ふれあいドームにて、下大池分館の『健康活動機つけ講座』が行われました。この講座は、村が包括連携協定を締結している松本大学から地域健康支援ステーションの方を講師にお迎えし、今年度は4回に渡って行われます。



初回となったこの日は、コロナ禍以降、初の分館でのイベントとなりましたが、26名が出席しました。前半は、前屈や上体起こしなどの体力テストを行う組、効率的な運動や食生活についての座学を行う組に分かれて、後半は正しいウォーキングの姿勢などを学びました。参加された方は、それぞれのペースで、楽しそうに取り組んでいました。



小坂の名所を巡る

7月10日(日)、小坂分館社会部・体育部合同主催の『小坂の名所クイズラリー』が行われました。区民の健康増進と地域の魅力を再発見してほしいという願いから両部員らが企画。集まった参加者たちは小坂地区内にある道祖神や小坂諏訪神社、大日堂、鷹の窪公園などのチェックポイントを好きな順に歩いて巡り、出題されるクイズに挑戦しました。親子で参加した小学3年生の男子からは「歩くのが楽しかった」、お母さんからは「自分の住んでいる地域を周り、改めて発見があつて面白かった」と感想が聞かれました。



山すそ

いよいよ夏本番。夏の訪れを振り返ると多くの地方で観測史上最速の梅雨明けをし、6月でも猛暑日を観測した地域もあった。山形村でも真夏日が何日も観測されていた。例年のこととはいえ、暑くて耐えられない▼光熱費や地球環境のことを考えるとエアコン使用は極力控えたいが、この状況下だと頼らざるを得ない。熱中症警戒アラートもよく耳にするようにもなり命の危機になりかねないので注意したい▼夏休みに何をしてみよう、何を食べようなんて考えてみるだけでわくわくが止まらない。まずは家族の絆を深めるBBQ。山か海へ行き食材になる魚や野菜を1つでもいいから自分たちの力でゲットして食べてみたい。自己調達したものは特別美味しいだろうな。次は近所の子どもたちと仲良くなれるかもしれないラジオ体操。ぜひ1人からは顔見知りを増やしたい。また健康的な毎日を過ごせるかもしれない。そしてもう一つは私の夢!?でもある黄色いスイカを腹一杯食えること。甘さはどうか?どんな味がするのだろうか?早く食べたい! あゝ夏休み、私の心は、夏のオレンジ色に燃えている!

鉢盛中学校3年生白峰タイム

3年生の総合的な学習の時間『白峰タイム』が始まりました。3市村に実際に



朝日太鼓 白峰祭での発表を目標に、みんなで心を合わせて練習しています。

草木染 講師:平林美江子さん(上大地)、松村京子さん(上竹田) 身近な素材で草木染をし、小物を制作しています!



学区内の生態系 講師:『アクアの会』上條一則さん(下竹田) 学区内の川や野原をみんなで探検!



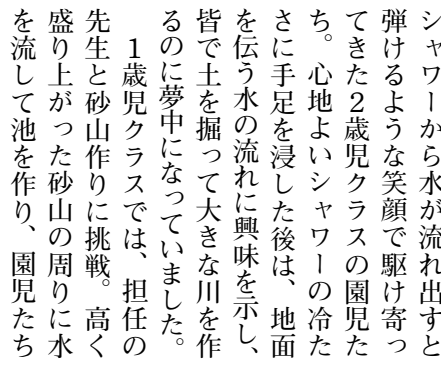
クラフト工芸 朝目村の間伐材を使って、世界にひとつしかない時計を制作中!



地域の歴史 疑問に思ったことは地域の方に直接聞きに行きます。地域を深く知る楽しさを実感!



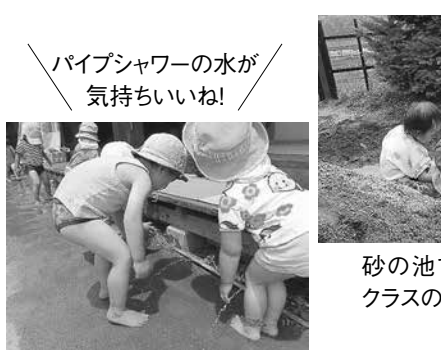
福祉 松本養護学校と交流するために、モルックを体験。また、山形村社協の協力で高齢者の疑似体験をさせていただきました。



農産物 3市村の農業の特色を学び、地域の食材を活用したレシピを考案します!

山形小学校音楽会

6月17日(金)、山形小学校にて、音楽会が行われました。今年も新型コロナウイルス感染症対策として、学年ごとに



砂の池で遊ぶ1歳児クラスの園児たち

園庭に設置されたパイプシャワーから水が流れ出すと弾けるような笑顔で駆け寄ってきた2歳児クラスの園児たち。心地よいシャワーの冷たさに手足を浸した後は、地面を伝う水の流れに興味を



暑い季節を迎え、水遊びが楽しい季節になりました。今回は、屋外でダイナミックに遊ぶ1歳児、2歳児の様子をご紹介します。

パイプシャワーの水が気持ちいいね!

やまのこ保育園 水遊び

B&G海洋センター オープン!

6月18日(土)、B&G海洋センターにて、令和4年度のプール開きがありました。当日は無料開放ということもあり、大勢の来場を見込んでいましたが、あいにくの空模様のため午前中は10数名でした。午後になると気温も上がり、30名を超える来場がありました。



山形小学校の給食

地産地消にこだわる山形小学校の給食は、栄養教諭、調理員、地元生産者の方たちの連携によって成り立っています。今回、給食の取材を通して、子どもたちを大切に思う地域全体の繋がりが見えました。

「美味しい」給食の秘密

山形小学校の給食は、在校生はもちろん、卒業生からも「また食べたい」と声が聞かれる程、美味しさに定評があります。その理由として調理、食材、献立に独自の特徴があります。

まず1つ目は、『自校給食』。学校内に設けられた調理室で調理員の皆さんが炊飯や調理を行っており、お昼にはできたての温かい給食が各教室に並びます。

2つ目は、食材。給食には山形村産の農産物がたくさん使われていることをご存知の方も多いと思います。野菜や果物、調味料などは村内の生産者の方たちで構成する『安全な学校給食を守る会』のメンバーによって、毎朝給食室に届けられています。地産地消を中心に低農薬にも配慮して栽培されていることから、安心・安全であると同時に村の農産物の味を知る機会にもなります。

最後は、栄養教諭の存在。野菜の持ち味を活かした献立作りや、食材を届けてくれる生産者の方を子どもたちに伝え、食べ物の大切さや感謝の理解を深める『食育』も担っています。

畑から調理室、子どもたちへと切れ間なく繋がることによって、美味しい給食が作られています。

岡澤博子 栄養教諭に聞きました

給食は決められた時間内で大量に調理するため、どんな状態の野菜でもいいとはいえません。『安全な学校給食を守る会』の皆さんは、低農薬に気を使っただけでさるだけではなく、私たちが効率良く処理できるように、ある程度の大きさに揃えて、虫がついていない状態の良いものを選別して用意して下さっています。本当にありがたいことです。野菜の味が美味しいので、料理の味付けはシンプルに、食材の味を感じられるようにと心掛けています。

6月に『安全な学校給食を守る会』代表の上條陽子さんを訪ねた際、「山形村の野菜は新鮮で美味しい。この味を子どもたちにも味わって欲しい」という言葉が印象的でした。私も給食の仕事を始めてから「同じ野菜でも季節によって味が違う」ということを知り、感動したのを覚えています。子どもたちにもこの感動を伝えたいとずっと思い続けていたので、同じ想いを持っていらっしやうったことがとても嬉しかったです。上條さんの作ったさくらんぼを給食に提供した日に給食の一口メモにこの内容を掲載し、給食室前の廊下にも写真を掲示しました。上條さんの言葉や聞いたお話をそのまま子どもたちに伝えていきたいと思っています。



村の食材たっぷりのミートソース



給食大好き!!

調理員の皆さんに聞きました
給食を作るうえで心掛けていることは美味しく作ることです。その上で、安心と安全に最も注力しています。不純物が入り込まないように確認を怠らないことはもちろんですが、料理全般、サラダは調理用手袋をはめていても必ず柄杓を使用し直接触らないようにしています。また食中毒などを防ぐために、でき上がりの料理は必ず3ヶ所の温度を測っています。
食材では、野菜などに入り込んでいる虫がたまに混在しています。虫がいるということはその野菜には安全な農薬処理がされているという証でもありません。葉を1枚1枚剥がしての確認や洗う際のお湯を熱くするなどの対策をしています。



全校分のハンバーグ(約500個)も手作りします



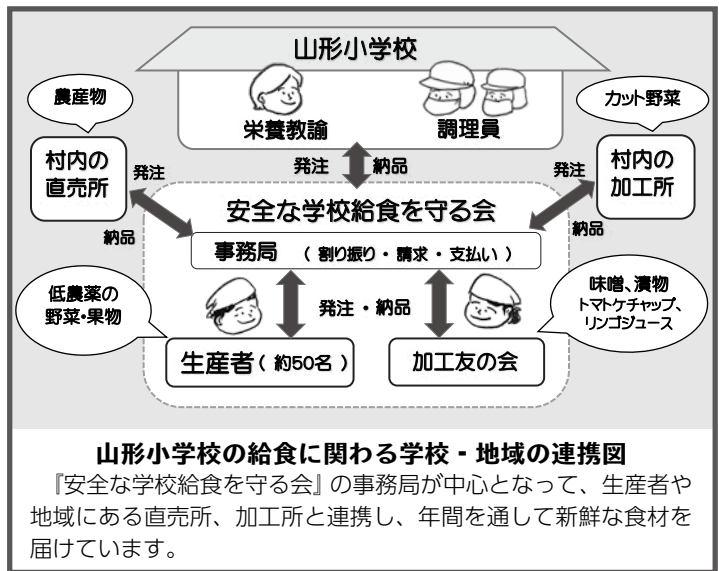
たくさんの野菜も1つ1つ丁寧に処理します

『安全な学校給食を守る会』
大池 俊子さん(上大池)に聞きました

1986年から地元山形村の農産物や加工食品(リンゴジュース、漬物、トマトケチャップ)を届けて35年が過ぎました。1998年には『安全な学校給食を守る会』を発足し、組織体制を充実させ、生産者も単品出荷者も含めると50名を超えるまでに発展してきました。

山形村特産の長芋、ごぼう、ネギ、スイカ、リンゴのほかにも50種類余の野菜・果物を提供しています。なるべく低農薬・無農薬・有機栽培品を提供しています。

また、生産者が主で組織された『加工友の会』が地元山形村の農産物を使ったトマトケチャップ、リンゴジュース、福神漬、味噌などを提供しています。



子どもたちに村で採れた新鮮で美味しい野菜を好きになってほしいと届け続けて35年が過ぎる中で子どもたちの状況も社会状況も大きく変わりました。『安全な学校給食を守る会』も高齢化という大きな課題はありますが、自校・自園給食を守りながら、山形村の大切な農業の素晴らしさを子どもたちに体感してもらい、食育活動としても野菜・果物を提供し続けることを『山形村の目玉・山形村の宝』としていきたいと思っています。



朝届けられた新鮮な地元野菜



旬の食材と栄養バランス満点の献立



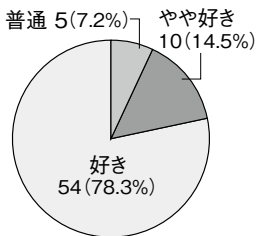
代表
上條 陽子さん(中大池)

コロナ禍以前には、学校給食に招待されて子どもたちと一緒に給食を食べていましたが、今はそれできない状況です。子どもたちの美味しく給食を食べている姿を見るのが一番嬉しいです。

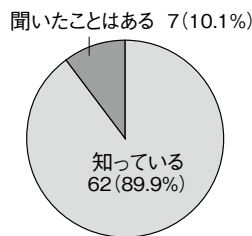


長ネギ生産者
百瀬 敏子さん(下竹田)

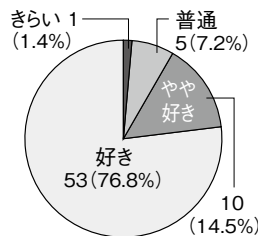
低農薬のため、病気や虫に食べられないように細心の注意を払っています。私も高齢になり、いつまでネギを届けられるかわかりませんが、皆さんに美味しい給食を味わってほしいと思います。



3. 地元野菜を使った給食献立は好きですか?



2. 山形小学校の給食には、地元野菜が使われていますか? (ネギ、じゃが芋、長芋など)



1. 山形小学校の給食は好きですか? (回答数 69)

山形小学校5・6年生へアンケートを実施!
インターネットの質問フォームより回答いただきました

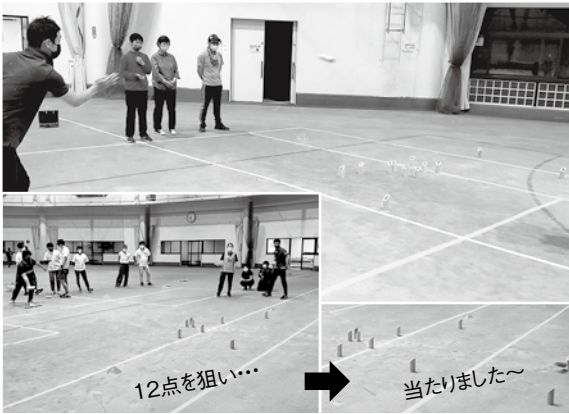
村の子どもたちに、安心して安全な給食を食べてもらいたい。村で採れた野菜や果物の美味しさを知ること、生まれ育ったふるさとに誇りを持ってもらいたい。山形小学校の給食に関わる方たちに取材を重ねていく中で、熱い思いがひしひしと伝わってきました。

現在給食を食べている子どもたちはアンケートで感謝の気持ちを答えてくれていました。生産者の方の思いがしっかりと伝わり、子どもたちの心の成長にもつながっているように感じました。

一方で『安全な学校給食を守る会』のメンバーの高齢化や低農薬栽培の大変さなどの課題があることが見えてきました。少しずつ若手の生産者も参加していますが、農家全体の人手不足は依然として深刻です。農薬をなるべく使わないことで増える作業量に対して、高齢化と人手不足が重くのしかかります。

子どもたちのことを想って、給食とその食材を作り続けている方たちがいることを、少しでも多くの村民に知っていただき、この仕組みを維持するために何ができるか一緒に考える機会になれば幸いです。

モルック体験会&交流戦



☆YouTube動画配信中☆

山形村スポーツ推進委員会では、2021年度からモルックを活用したスポーツ振興に力を入れています。動画では基本ルールや投げ方などを紹介していますので、ぜひご覧ください！



ルールや並べ方→



←投げ方やモルックアウト(延長戦)

6月23日(木)には松本市からモルックチームが参加し、スポーツ推進委員会による山形村チームとの交流戦も行われました。50点を目指して両チームとも高得点(最高得点の12点)に狙いをさだめてファールを繰り返しながらも、(ファール3回で失格、2回ファール3回目に得点すればファールカウントが消える)好試合が展開されました。山形チームも良い戦いができて、筆者は観戦していても楽しめました。モルックに興味のある方は教育委員会(☎0263・98・3155)まで連絡ください。

『モルック』とはスキットルと呼ばれる筒状の木の棒を下手投げで投げ、倒れた数字もしくは倒れた数で得点が決まり得点を足して先に50点になったチームの勝利、と老若男女問わず楽しめる生涯スポーツの要素がある競技です。まだ慣れない参加者は練習後3人1チームになり、チーム戦を行いました。3回連続で得点にならず失格になってしまうチームや50点ちょうどになり歓声を上げるチームなどニュースポーツを楽しみました。

6月16日(木)、ふれあいドームにて、山形村スポーツ推進委員会主催のモルック体験が行われました。

おやじ塾開講



少年時代の経験を、今を生きる子どもたちへ伝えます

6月24日(金)、トレーニングセンターにておやじ塾が開講しました。年間計画作戦会議を行ったのち、ストレッチで身体をほぐしました。7月3日(日)には、第1回活動としてふれあい児童館裏の親水公園にてYFR(やまがたの生き物観察会)にサポートとして参加しました。これに続く活動として、村主催の河川清掃へ参加(7月30日)、YFRと川の生き物観察会(8月21日)などを予定しています。



作戦会議の様子

古文書講座開講



6月21日(火)、トレーニングセンターで、古文書講座が開講しました。講師は塩尻市の太田秀保先生、毎月1回の全10回を予定しています。同講座は公民館が主催し、村内在住の方が受講可能です。この日に学習した古文書は、大池村中村家に伝わった3つの文書。1つ目の文書は、「いつ、誰」が問合せたのかは記されていないませんが、江戸時代に領主が中村家に村内の風紀について訊ねたものであることが、読み解いていくと明確になります。2つ目と3つ目の文書は村内の秩序を守るため、村人自らが定めた村定めについて博奕をした者や場所を提

供した者に對する罰金額など、細かな取り決めがなされていたことが分かります。秩序の乱れは為政者に「宜しからず」とも、村人にとって博奕は『楽しみ』なのか『悪』ととらえるのかなど、当時の様子がいまみえます。次回以降の展開が気になるところです。

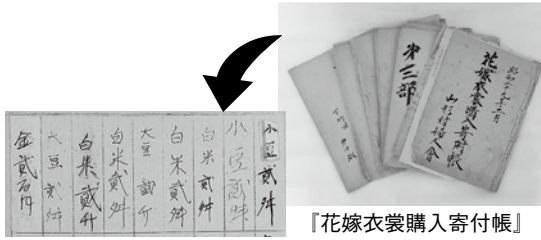


おめでた字・題



- 丸山 陽 一輝 下竹田
- 百瀬 菜々葉 洋平 上大池
- 平澤 翔空 義宗 上竹田
- 本庄 芙風 大介 上大池
- 帆奈美
- 六川 育子 86歳 上竹田
- 中村 貞子 94歳 上大池
- 百瀬 千代子 83歳 上竹田
- 上條 康司 86歳 小坂
- 松下 勝昭 77歳 上竹田
- 坂井 武志 88歳 下竹田

系車 ⑬



【花嫁衣裳購入寄付帳】



展示の様子

令和4年5月24日(火)から6月12日(日)まで、山形村図書館の一角をお借りして『山形村の婦人会と婚礼衣装』展を開催しました。展示では教育委員会が所蔵する婦人会関係資料のなかから、白打掛や懐剣など、婚礼に関する資料をお披露目しました。

戦後の山形村における婦人会は昭和21年に結成され、昭和29年頃からはより一層の充実を目指して各区で会を独立させ、それらの連合体として山形村連合婦人会が組織されます。自主的な学習会や講演会、地域行事への参加などの活動が盛んに行われましたが、それと併せて行われていたのが「衣装の貸出し」活動です。

昭和29年、婦人会では結婚費用の負担軽減のため、村民に寄付を募り貸出し用の花嫁衣裳3着を購入します。当時の寄付帳をみると、寄付は金銭だけでなく白米や大豆などでも受付けていたようで、金額や数量に違いは見られるものの850戸が寄付をしています。翌年の昭和30年の世帯数が1134戸ですから、村の75%ほどの世帯が寄付に協力していたことになりま

す。衣裳購入を決める際には世論調査をするなどして広く議論を交わしたことも当時の館報やまがたに記載されていますので、多くの村民の賛同を得て購入に至ったことがわかります。貸出しが始まった昭和29年の記録簿には、29人に貸出しを行ったと記録されています。昭和36年には50人を超える数に増えていきますので、村内での需要も高かったことがうかがえます。

このような婦人会の記録からは、村の慶事をみんなで祝おうという思いや助け合って暮らしていこうという支えあいの精神が感じられるのではないのでしょうか。

教育委員会では、今後も村内公共施設を利用して展示を行う予定です。どうぞご期待ください。



探しています!

教育委員会では、次の2つの本を探しています。お手元にあつて、寄贈しても構わないよ!という方がおられましたら、ぜひご連絡ください。

- ①「村誌やまがた」 (昭和55年発行)
- ②「館報やまがた縮刷版 第一巻」 (昭和50年発行)

【連絡先】
山形村教育委員会
☎0263-98-3155

【お詫びと訂正】
館報6月号掲載記事で誤記がありました。
・村長杯マレットゴルフ大会参加者募集の上大池地区役員春日仁さん電話番号 (誤)0263-98-13838 (正)0263-97-1717
関係者の皆さま及び読者の皆さまに深くお詫び申し上げます。訂正版については村ホームページに掲載しています。

みんなの人権 ⑨5

「食べる(いただく)」ということ ～学校給食のありがたさと「生存権」



◆6月のある日、近隣の美術館で、土門拳の写真展を鑑賞する機会がありました。激動の昭和史を捉えた迫力ある作品群。なかでも、1枚の衝撃的な写真に、目が釘付けになってしまいました。タイトルは「弁当を持つてこない子」。撮影年は昭和34年(1959年)。当時の九州・筑豊の子どもたちの生活を捉えた1枚。小学校の昼食時、アルマイトの弁当箱を手に夢中に食べる子どもたちに混じって、雑誌を読む女の子。生活苦で「弁当を持つてこられない子」を捉えた一枚でした。その女の子の切なくやりきれない心の中をおもんばかりながら、同時代の自分の学校給食の光景を思い起こしていました◇《パン 鯨肉カツレツ ミルク(脱脂粉乳使用) 酢の物 パター》。これは、昭和32年(1957年)5月9日の山形小学校の給食の献立です。「コッペパン、脱脂粉乳、鯨肉」に代表される昭和30年代の学校給食の献立には、団塊世代の貧しくも懐かしい少年時代の生活が凝縮されています◇「山形学校史」によれば、20年後の昭和61年のある日には、

《ご飯、牛乳、みそ汁、むしどりのごまだれ、ほうれん草のアーモンド和え》と、主食もおかずも年を重ねるごとに多彩になっていったとのこと◇「人はパンのみに生きるわけではないが、パンがなければ生きられない。」「食べる(いただく)」ことは、健康で文化的に生きるための最低限の条件。昭和29年(1954年)に公布された学校給食法の背景には、GHQによる占領政策の意図を含みながら、先ほどの写真に象徴されるような、子どもたちの《飢え》という現実がありました。「給食はその誕生からずっと貧困対策であり、防貧対策だった。経済成長期以降、飢えは無くなったから給食を合理化せよ」という意見が強かったが、そのときも含めて給食はずっと家で満足に食べられない子の唯一のまともな食事であり続けた。」(藤原史 給食の歴史 岩波新書) 私たちは、昨今のコロナ禍での臨時休校、夏の長期休みなどのたびに学校給食のありがたさを痛感します◇また「食」はあらゆる学びの基本でもあります。食材を育て、料理し、配分し、食べ(いただき)、片づける、という給食のあらゆるプロセスが、「人間が生き物の連鎖の上にはかその生を維持できないこと」を具体的に教えてくれます。

◇山形村の「安全な学校給食を守る会」が、関東農政局から「令和3年度地産地消等優良活動表彰」を受けました。35年以上に渡って、山小や鉢中、保育園に給食のある日は毎日、地元で低農薬野菜を届けてもらっています。山形村の地産地消の自校給食は、たくさんの方の縁の下力持ちによって維持されています。学校給食を通じて、「食」という生存権を守り続けてくれる「優の風景」ではあります。(優の風景⑬)子どもの貧困、(36)コロナ禍と人権等参照

(令和4年7月 M.H.記)

地域の方が講師になり、普段学校生活では味わえない体験や経験ができる『わくわくクラブ』が4～6年生を対象に始まりました。10月までの全5回、学年も違うメンバーと一緒に楽しみながら学びます。

今年も始まったよ！ 山小わくわくクラブ



イラスト



ソフトボール



コンピューター



バドミントン



フラワーアレンジメント



運動



郷土料理



自然遊び



写真



将棋



手芸



書道



絵手紙



伝統文化



卓球

山形村公民館報『館報やまがた』No.795 7月号 令和4年7月発行
編集と発行／長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷／カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見るができます→

